

第4回津山市地域公共交通会議 会議録(要旨)

平成21年7月30日 10:05~11:20

津山市役所5階 501会議室

1 開会(事務局)

2 経過報告

委員長、副委員長の選任について

(委員) 事務局案でよいのではないか。

(事務局) 事務局案を提案 承認

3 会長挨拶(会長)

委員、事務局自己紹介

4 報告事項

(1)神姫バス休止への対応について

(事務局) 資料1に基づき説明。

(会長) JRでの対応は難しいのか。

(事務局) 通学、フルタイムでの通勤での利用については、津山に着く時間が遅く、また料金的にも高くJRを利用しているが、高齢者等が通院や買い物などに利用しており、バス停とJR駅の位置関係を考えるとJR利用にするというのは難しい。また、障害者の方もJRを利用するのは難しいと考えている。

(委員) 資料に添付の料金表は、新運賃か。

(事務局) 添付のものは、神姫バスのものである。中鉄北部バスでは少し下がった料金となる予定。

(委員) ごんごバスと同様な料金体系にする、あるいはごんごバスを値上げするなどの予定はないのか。

(事務局) 総合連携計画の中でも料金等についても整理すべきと考えており、今回は代替運行ということでほぼ同料金にさせてもらった。

(委員) 停留所の増減はあるのか。運賃については、中鉄北部バスの運賃でよいのか。

(事務局) 停留所は、現在の神姫バスのままである。運賃は、中鉄北部バスのもの。

(委員) 津山駅前から大崎の区間は、柵原星のふるさとバスと競合するが、時間帯等の考慮はしているか。この路線は県の補助路線となっているのでそこへの影響はどうか。

(事務局) 今までも競合していたが、重複部分はわずかであり問題はないと考え

ている。運行ダイヤについてはよく考慮したい。

- (会 長) この案件については承認等必要ないということによいか。
- (事 務 局) 結果的に既存の 4 条運行业者が運行するため必要ないということ運輸支局から聞いている。
- (委 員) 同区間の JR 料金はいくらか。
- (事 務 局) 津山から勝間田までが 230 円である。

(2)「津山市地域公共交通総合連携計画」について

- (事 務 局) 資料 2 に基づき説明。
- (委 員) 市民アンケートを実施していただきありがとうございました。返ってきたアンケートを見ることはできるのか。
- (事 務 局) 現在は、このアンケートについて PT 調査の分析をしている段階であり、9 月以降であれば見ることは可能である。
結果を整理したものは報告する予定。
- (委 員) インターネットで見るとはできるのか。
- (事 務 局) 最終的には、ホームページでも見れるようにしたい。
- (委 員) 連携計画は、運輸支局が窓口として実施している。今年度は、計画を策定、それに基づき向こう 3 年間試行錯誤する中で地域の交通体系をつくっていかうということで進めている。
本年度は全額、次年度以降は 1/2 補助となる。
他地域での成功事例をそのまま持ち込んでもなかなかうまくいかないこともある。色々と試行錯誤して地元で使っていけるものにしていきたいと考えているのでみなさんにも協力していただきたい。
- (会 長) 津山市では現在、中心地の活性化計画等を作っている。これらをつないでいくということで、交通の計画も立てているので協力をお願いしたい。

(3)その他

- (事 務 局) 中鉄北部バスから、10 月からの経路変更について報告いただきたい。
- (委 員) 鏡野町からの強い要望があり、市街地での経路変更を実施予定。通学で約 30 名程度利用している中で、できるだけ学校の近くまで運行できないかという要望である。10 月 1 日からを予定している。
- (委 員) あまりきめ細かく運行するとタクシーの仕事になってしまう。
津山駅から東小学校まで乗るといくらぐらいになるのか。
- (委 員) 150 円ぐらいである。
- (委 員) 3,4 人乗ればタクシーの方が安いのではないか。
- (委 員) 従来よりこの区間については津山駅からの路線があり、今回の変更については、主に通学の便を考えている。
- (委 員) いい時間帯だけに運行されると困るのでそのあたりも考えてほしい。

- (委員) 合計で35名津山市内の学校に通っているものがあり、現在は裁判所前で降りており、この人たちに経路を合わせて考えた。
- (委員) ごんごバスに乗り換えたらよいのではないか。
- (委員) 学生は乗り換えはしない。
- (委員) 鏡野町にも別の要件で伺ったときに地元の学生の足としてお願いしていると聞いた。
- (委員) 経路変更により、路線長が伸びてくるため国県補助の関係協議が必要であると考えている。
- (委員) このような対応は、タクシーの仕事である。
- (委員) バスとタクシーは、住み分けをしていくことが必要である。
- (委員) これからもあちこちの路線で同じような要望が出てくるのではないか。
- (委員) 今まで細かい対応ができていないためにバスが衰退してきた。城東地区等でのごんごバスの事例もあり、バス事業者としての責務を果たしていくには細かいところまで運行していかなければならないと考えている。
- (委員) 行政に任せっきりでなく、バスもタクシーも利用していかなければならない。
- (委員) 収支改善の中でダイヤの見直しがあるが、今回の経路変更と同時にするのか。
- (委員) 収入増と経費削減に向けての取り組みがあり、ダイヤについては、学生が利用している便については休日には利用がないため運休し、トータルでは経路は増えるが総走行距離は増えないようにしたい。
石越線から中央病院に行くためには乗り換えが必要であるが、運行系統は別となるが、同じバスを使っていくことで乗ったまま津山駅経由で中央病院に直接行ける便も考えている。
- (委員) 警察署の前や衆楽園前は渋滞するので歩いたほうが早いのではないか。
- (委員) タクシーは、きめ細かく動けることを売りにしたほうがよいのではないか。クラブ活動などで時間がずれて帰る人もするので、そこにタクシーが入っていけば余地があるのではないかと思う。
- (委員) 競争がないと利便性が向上しないのではないかと思う。
- (委員) ニーズをつかむということが大事ではないか。

5 その他

- (委員) 規約について、国の改正に伴う部分を訂正してほしい。
- (事務局) 確認して対応する。
- (委員) 勝間田駅前から美作市側の運行バスとの乗り継ぎ定期ができないか検討してほしい。
- (事務局) 新しい美作市側のバスと協議していければと思っている。
- (委員) 美作市は、6社で新しい会社を作って運行する予定と聞いている。
- (委員) JRの時刻表を持っている人はいるが、バスの時刻表を持っている人は

あまりいない。料金のことあまり知らない。アピールすることがあまりできていない。そういったことから始めていければと思う。

6 閉会